

シルバー北見

136号
2022

令和4年6月25日発行 ■(公社)北見市シルバー人材センター広報委員会 〒090-0836 北見市東三輪5丁目1-16 ☎0157-23-6000



『日本一の玉ネギ』補植作業から

写真提供 塩浜 郁夫さん

●会員登録数

単位：人

	3 月			4 月			5 月		
	入会	退会	月末現在	入会	退会	月末現在	入会	退会	月末現在
男	1	0	570	22	69	523	6	1	528
女	0	0	194	7	24	177	3	0	180
計	1	0	764	29	93	700	9	1	708

働くよろこび、社会参加の輪を広げよう

令和四年度 シルバー 定時総会開催 契約高四億五千六百万円を目指す

(公社)北見市シルバー人材センターの定時総会が、五月二十七日(金)に北見芸術文化ホールで開催された。

コロナウイルスが全国的には減少の傾向にあったが、北海道ではまだまだ収まる気配が見えず、オホーツク圏に於いても同様の様子だ。その為、人と人の接触の機会を徹底的に低減する措置を講ずるなどの対策が取られた。特に総会を簡素化し、来



総会司会の柳田隆一次長

賓についてもご理解を願い、出席を辞退していただいた。

総員七百八名中、出席者及び委任状提出者併せて、計五百八十七名で総会は成立した。

総会に先立って物故者に対し、一分間の黙祷が捧げられ、続いて令和四年度永年継続者表彰が行われた。

初めに、大矢根洋哉理事長の挨拶があり、続いて中寛良常務理事から、令和三年度事業報告



議長を務めた新飯田俊男氏



総会に参加した会員の皆さん

及び令和四年度の事業計画が示された。また、大武利章総務課長から令和三年度収支決算報告、及び令和四年度の収支予算案も示された。

基本方針として ①事業の普及啓発と就業機会の拡大 ②会員拡大と知識・技術の向上 ③組織の運営強化と地区班活動の充実 ④安全就業の徹底と事故防止 ⑤長期就業是正と適正就業の厳守など、十二の重点目標が示された。

新役員選ばれる

任期満了に伴い役員改選が行われ、五人の新任を含む十七名の役員が推薦され、承認された。

役員に承認された皆さん

(任期2年)

理事長	大矢根洋哉	再任
副理事長	伝法谷正治	再任
副理事長	詫間 敏晴	再任
常務理事	中 寛良	再任
理事	水谷とし	新任
理事	高橋 健一	新任
理事	丸銭 達司	再任
理事	上村 信弘	新任
理事	河合 宏之	再任
理事	前田 邦男	再任
理事	伊東 邦裕	再任
理事	神尾町武正	新任
理事	梅田 幸夫	新任
理事	三好 長俊	再任
理事	片岡 敏昭	再任
監事	西田 勝雄	税理士
監事	佐藤 政代	再任

令和3年度

四億二千七百万円の事業実績を確保
会員数は七六四人にとどまる

大矢根洋哉理事長が挨拶

令和四年度の定時総会の開会にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、日頃より当センターの事業運営にあたり、ご支援とご協力をいただいておりますことに、心よりお礼を申し上げます。

ただ今、永年継続会員として表彰をされました三十一名の会員の皆様おめでとうございます。



大矢根洋哉理事長

皆様は十年間の長きにわたり、地域社会づくりに貢献され、当センターの発展に大きくご尽力されましたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

今後とも、健康には十分留意され、私ども後輩にご指導をいただきながら、生涯現役を目指して仕事にも、日常生活においてもご活躍されることをご祈念申し上げます。

さて、昨年はコロナ対策による公共施設の閉鎖等もなく、学校プールも平常通り運営されました。

台風や長雨、災害などもなく、春先から前年並みの就業となり、冬場の除雪につきましては前年度より一回増えて四回の出勤となりました。しかしコロナ禍前の水準に回復するまでには至ら

ず、結果として受注実績は派遣事業を含め総事業費では四億二千七百万円となり、前年度とほぼ同額の決算となりました。

また、会員数は、令和二年度末八百十人に対しまして令和三年度末は七百六十四人と四十六人減少しました。このことは、昨年より「改正高齢者雇用安定法」が施行され、企業団体には高齢者の雇用を確保する努力が求められ、現役就労者の延長等によつて、シルバーに入会してくる人の減少に影響を与えているものと判断しております。

国のコロナ感染予防対策の実施により、全国的にシルバー事業の受注額・会員数、共に大きく減少を続けている中であつて当センターは、安定した事業実績を維持しております。これらは春日頃より、役職員をはじめ会員の皆さんの親切・丁寧な仕事ぶりが市民の皆様信頼され認められている結果であり、心よりお礼を申し上げます。

高齢化社会の進展で若い働き手が減少し、今後におきまして

も当センターの存在意義、必要性は、ますます大きくなり、且つ、責任も伴つてまいります。当センターはこれまでも増して、お客様に信頼され、期待されるセンターを目指し、役員・会員が一人となつて更なる発展に努めて参らなくてはなりません。

今後とも国や北海道、北見市の動向を、十分踏まえながら、業務の拡大に積極的に取り組んで参りたいと考えております。会員の皆様には、働く喜びと生きがい作り、また、社会の担い手として、今後とも社会参加を続けていただきたいと思います。お祈りします。

結びにあたりまして、皆様のご健勝と北見市シルバー人材センターのますますの発展を祈念申し上げます。定時総会にあつての挨拶とさせていただきます。



令和三年度 事業報告

受注金額で四億二千六百八十二万円(昨年並み)

就業率 81・28%

国内経済の動きは、一昨年から新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、先行きが見通しにくい経済情勢となっております。

当センターでは、令和三年度は基本方針と長期実施計画に基づき、重点的な取組み事項として会員確保と就業機会の拡大、安全就業の推進と適正就業の確立、会員を取り巻く環境整備、事業運営のさらなる基盤整備に努めてきました。

また、北見市をはじめ各関係機関・団体、市民の皆様のご支援とご協力のもと、着実にセンターの社会的役割と責任を果たしてきました。

事業実績については、受注件数が六千四百五十九件と対前年比で百二十七件の増加、受注金額は派遣事業を含め四億二千六

百八十二万円となり、対前年比では、ほぼ同額となりました。また、年度末の会員の就業率についても81・28%で、前年度より1%ほどの増加となったところです。

会員数については、全国的に減少傾向が続く中、当センターにおいても二年連続で減少し、令和三年度末ではここ十年來、初めて八百名を割り七百六十四名となりました。この減少要因としてはさまざまな事が考えられますが、一つには既存会員の高齢化による退会者の増加、二つめには当初の入会目的であった社会貢献や生きがい重視から生活のための収入を重視することによる「シルバー離れ」が指摘されています。

こうした現状を打開するため、北見地方の特性に合わせた就業

の掘り起こしや女性会員の入会促進を強化し、働く意欲を持つ会員に結び付けていくことが重要と考えます。今後もあらゆる機会を通してシルバー事業の周知とPRを推進してまいります。

そうした状況のもと、例年実施している六月の「奉仕清掃活動」、十月の「シルバーの日啓発活動」では、コロナ禍の中において感染防止対策を徹底して実施し、奉仕活動における会員の参加率は、50%を達成することができ、地域への社会貢献の役割を十分果たすことが出来ました。

また、就業に必要な知識、技能の向上を目的として例年実施している各種講習会は、コロナ禍による中止もありましたが、九回開催し百九十五名の会員が参加しました。次年度も継続して実施してまいります。

今後も引き続き地域に密着した就業と安全・適正就業に努め、会員個々の健康と安全をすべてに優先し、事業運営に努めてまいります。

北見シルバー人材センター令和3年度事業実績表 (定時総会資料から)

	令和3年度	令和2年度	増減
登録会員数(人)	764	810	▲46
受注件数(件)	6,459	6,332	127
就業延日人員数(人日)	70,450	68,645	1,805
契約金額(円)	請負分 396,698,813	請負分 399,232,689	▲2,533,876
	派遣分 30,120,755	派遣分 27,639,832	2,480,923
	計 426,819,568	計 426,872,521	▲52,953
配分金額	351,581,859	356,730,924	▲5,149,065
事務費	32,440,370	28,620,987	3,819,383
原材料費	12,676,584	13,880,778	▲1,204,194

事業推進の考え方について

常務理事 中 寛良

一昨年来、新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返され、市民生活や地域経済など、多方面にわたってさまざまな影響が生じています。

道内センター全体の事業状況を見ますと、会員数、実績契約金額とも全国に比して厳しい状況にあります。

今後においても、コロナ対策は長期にわたるものと認識し、感染拡大防止をさらに継続するとともに、シルバー会員の健康を第一に考え、社会を支える労働の担い手として、高齢者が働きやすい就業条件や就業環境を構築していくことが不可欠と考えます。

さらに、派遣事業による高齢者の多様な就業機会の確保に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症が内外経済、そして

シルバー事業に及ぼす影響も注視しながら事業の推進を図ってまいります。

また、定年延長や高齢者の価値観の多様化などもあり、この数年間にわたって会員数の減少に歯止めがかからず、今後更なる入会促進と退会抑制を目指して取り組む必要があります。特に女性や企業退職者を新たに会員として迎えるためには、働きやすい環境づくり、魅力ある就業の開拓等、さまざまな課題解決にしっかりと取り組んでいかなければなりません。

人生百年時代を迎える中で、働くことのできる高齢者の受け皿として当センターに求められている役割はますます重要となっており、今後も各関係機関、団体と緊密な連携を図りながら、目的達成のため事業を展開して

まいります。

当センターといたしましては、引き続き官公署をはじめ一般企業及び市民からも幅広く認知と支持をいただきながら、会員の真摯で責任ある仕事により着実に進展を続けて行かなければなりません。そのためにも、日頃の市民への感謝をこめて実施している会員、役職員一丸となつての奉仕活動やボランティア活動、さらに市民への周知・PR事業を今年度も着実に実施してまいります。

令和四年度事業目標

(長期計画)

- ① 会員数…八百二十名 (九百名)
- ② 就業率…84.0% (89.0%)
- ③ 契約金額(請負) 四二〇、〇〇〇千円 (四二二、〇〇〇千円)
- ④ 契約金額(派遣) 三六、〇〇〇千円 (四四、〇〇〇千円)

シルバー互助会総会開く 今年度の事業決める

総務部会関係では、今年度も昨年に引き続き、六サークルの援助について可決されました。

また、事業部会関係では、次の三つの親睦行事を行うことが決まっています。

- ① パークゴルフ大会
 - ・日 時…令和四年 七月十七日(日)
 - ・場 所…端野町パークゴルフ場
 - ・参加費…一人 五〇〇円
 - ② 一泊研修旅行
 - ・日 時…令和四年 十月二十一日(金) ~ 二十二日(土)
 - ・場 所…温根湯大江本家
 - ・参加費…一人八、〇〇〇円
 - ③ 第三十一回新年研修交流会
 - ・日 時…令和五年 一月二十八日(土)
 - ・場 所…ホテル黒部
 - ・参加費…一人三、〇〇〇円
- 多数の会員の参加を期待しています。



おめでとうございます

令和4年度 永年継続会員受賞者の皆さん



永年継続表彰を受けられた方々

令和四年度の永年継続表彰が、先般の定時総会で行われ、三十一名の皆さんが受賞されました。
 コロナ禍の影響もあり、今年は七名の出席者が壇上にあがり表彰状と記念品を受け取りました。
 長年在籍し、仕事をされて来られた皆さん、これからも益々健康で活躍ください。

6地区1班	5地区5班	5地区4班	5地区3班	5地区2班	5地区1班	4地区4班	4地区4班	4地区3班	3地区3班	3地区3班	3地区1班	2地区3班	2地区2班	2地区1班	
向啓子	得能治世	大塚宗男	築部京子	西澤憲捷	佐藤聡	武田勝利	結城幸一	佐藤暹	榎山敏夫	稗畠葵	黒田政男	猪狩隆澄	中村勤	角田正登	
		13地区1班	13地区1班	13地区1班	12地区4班	12地区2班	11地区6班	10地区2班	10地区1班	9地区1班	8地区2班	8地区2班	7地区5班	7地区4班	6地区2班
		林寿美男	片岡敏昭	関谷政治	大和谷兵吉	小原輝雄	巴裕一	金野ヤイ	高田安正	神尾町武正	青野勝義	今野喜一郎	高橋真治	岡中友子	高柳博子

(敬称略)

新年度最初の地区長・班長会議行われる

理事長より委嘱状を受ける

十七名の新任者を含む六十三名

去る、四月七日(木)十時より、令和四年度の第一回、地区長・班長会議が当センター研修室で行われた。

地区長十三名(新任五名)、班長五十名(新任十二名)計六十三名の内、約五十名の会員が出席した。

会議の冒頭、大矢根理事長から各地区長が委嘱状を受け取った。任期は地区長が二年(今年改選)班長が一年でそれぞれの業務にあたる。



大矢根理事長から委嘱状を受ける

会議にあたりコロナウイルスに万全の注意を払いながら、次の事柄が話し合われた。

※六月の奉仕活動(清掃)

※十月のシルバーの日

(宣伝活動)

※地区・班長の役割

※最低賃金の引上げ

※トラック貸出料の改正

※アルコールチェックの実施

その後、互助会の幹事会も行われた。



会議に臨む地区長・班長の皆さん



使用済み洗剤パックの回収その後 廃プラ削減・北見エコスクールSDGs



本誌1月号でも紹介したが、当センターにも標記の回収ボックスを設置するにあたり、昨年11月に榊の会役員が北斗高校でリサイクルの流れを見学して来た。翌月には入口受付の横に設置して会員や、サンライフ利用者に呼びかけ回収の協力をいただいた。

4月初めにはボックス3個分にあたる720枚が集まった。役員6人で仕分け梱包し、事務局を通しメーカーへ配送した。

主に当館を利用する女性の方々が持ち寄ってくれたもので、5月にはすでに2袋近くになっている。

当センターも、皆さんの協力で環境維持の一助が来ています。今後ともよろしくお願いします。



清掃作業に汗する会員さん

榊の会・あすなる会
公園を清掃
去る五月八日、サンライフの一角にある公園を両会総勢一七名で清掃を行った。強風と寒さの中、十時前からゴミ袋を片手に小枝・落ち葉・ゴミを拾い集め十一時半まで、枯れ枝の山とゴミ二十袋を集積した。昨年度に続き二回目となるが、子供たちが遊具で安心して遊べるきれいな公園にすることが出来た。皆さん大変お疲れさまでした。

「苦しい時期があつたから…」
3地区理事 丸銭 達司さん

常呂で育つ

丸銭さんは、生粋の道産子。常呂生まれの常呂育ちで、何と今をときめく、カーリング女子のロコソラーレ藤沢選手の叔父にあたるという。だから、チームが参加する各大会の時には、我を忘れて熱心に応援している。地元の高校を卒業して、すぐ、自動車教習所の指導員となり、その際、特殊車両など多くの免許を取得した丸銭さんは、観光ハイヤーに乗車するようになる。



丸銭 達司さん

大病を患う

十年務めるが、その後、好景気の中、物販会社に転職を決める。

四十代の働き盛りを迎えて、昼夜を問わずバリバリと働いた。そんなある日、突然の頭痛、吐き気・・・這って歩くのがやっとという状況に陥ってしまう。仕事上の睡眠不足と疲労が積み積もった結果だった。

突然襲った「大病」。もちろん、仕事は続かず「無職」となってしまった。家は建てたばかり、三人の子供を抱えての時期である。病院にかかるも、結局七年余も病み続けていた。

「この時、妻には、本当に苦労を掛けてしまった。」と、振り返る。少しずつ回復するも、(いつ病気を繰り返すか)の思いもあり、再就職活動もままならなかった。

助かった命だから

不眠、頭痛と闘いながら、薬の支えで「バス運転手」として再起を果たした。幸い、年々薄皮をはぐように病状は好転し、正職員に採用され、六十三歳の定年まで勤めあげることができた。

「大丈夫になった！」心中、人間不信の思いを抱えながらも、「つらい苦しい時期があつたから、今度は助けを必要とする人のためにつくそう！」と考えた。

環境保護のボランティア、民生委員、社協のボランティアなど次々に引き受けた。

さらに、新たなボランティアの育成支援や成年後見人制度の拡大にも努めた。一連の顕著な活動が認められ七十歳の時に『日本善行賞』の榮譽に輝いた。

シルバー活動の中でも

シルバターの活動の中でも、会員同士の触れ合いが少なくないと感じ、「あすなる会」と「椿の会」の立ち上げに携わった。あすなるは、週一回、男女そろつ

生きる力をもらおう

てマージャンや囲碁を楽しむ会だ。皆楽しんで活動している。椿は、女性だけの会だ。月に二回集まって、募金や道路清掃、社協のふれあい広場に参加するなどしている。最近では、高校生と共に「洗剤パック」のリサイクル運動にも取り組んでいる。何事も、楽しんで活動することを大事にしている。

現在、力を注いでいることは『子ども食堂』の運営だ。「食を通して、地域のつながりを深めたい」と、奥さんと手を取り合って、高栄地区住民センターに開設した。食堂は、毎週木曜日午後五時から、だれでも利用できることにした。

「病気を治すためにと飛び込んだボランティア活動。気持ちだけが前向きになり、社会の一員として、人のために何かできるんだと言う喜びがあります。人を支え人に寄り添うことで、生きる糧生きる力をもらっています。」と、笑顔で語ってくれた。

令和四年度各講習会始まる 『事故ゼロ』を目標に

シルバーの各種講習会は毎年四月から年度末にかけて行われる。この五月には「刈払安全・清掃作業・草取り」の講習会が実施された。

どんな作業にも事故はありえるが、無事に終わらせることが、その仕事の完了となる。忘れていた事に気付くためにも講習会は欠かせないところである。

刈払安全講習会

四月二十一日（木）に右記講習会が、四十名（内、新人二名）の参加でサンライフ北見にて行われた。

初めに、中事務局長の挨拶があり、続いて松本業務課長が講師となって始められた。「昨年度は賠償事故が二件、また野外作業では蜂に刺されて病院で処置された方が四人あった。今年は何としても『事故ゼロ』を目

指したい。」

- ◎人はミスをするものだ。
- ◎慣れ・油断・過信禁物。
- ◎刈払機・保護用具の点検を。
- ◎作業環境の点検・確認を。
- ◎防護ネットで、車や硝子の防御を。
- ◎四月からシルバー車輛を使う人には、運転前後のアルコールチェックが義務化となった。



中事務局長からの挨拶

草取り講習会

五月十六日（月）サンライフにて八名の会員が参加し、草取り講習会が開催された。

今回の講師である高橋健一氏は、当会員になって十三年の経験を持つ大ベテランで、安全委員も担っている。

- ◎講習内容は次の通りである。
- ◎野外作業のため、服装は長袖・長ズボン・ゴム手袋などを着用し、蜂などの害に遭わないようにする。
- ◎作業靴は滑りにくいものを履くこと。
- ◎夏は日焼け帽子の着用と十分な水分補給すること。

その後、サンライフの前の花壇で実技講習が行われ、草の取り方や、木や花の剪定方法を教わった。

各作業に当たっては事故に充分気を付け、安全安心の毎日を通じましょう。



『事故ゼロ』を目標に

- ◎安全は全てに優先する
- ◎安全なくして就業なし
- ◎自分の身は自分で守る
- ◎アルコールチェックの義務化



会員への実技指導も行われた

おすすめ本の紹介

『人生百年時代を楽しむ生き方』

『月刊シルバー人材センター編集室』から

この本は、『月刊シルバー人材センター』に二〇一八年四月から最近まで連載された二十八のインタビューで構成されています。冒険家の三浦雄一郎氏、落語家の林家木久扇氏など著名人が、「楽しみながら生きる」をテーマにその考えを述べています。

さらに、シルバー人材センターの今後の役割や、高齢者が生き生きとして生活するために必要なことを、具体的に示して提言しています。

例えば、評論家の樋口恵子氏は、「地域に必要なのは、『老働カ』、センターは高齢者を支える拠点に」と題して、著述しています。「生活サービスは、地産地消が何よりです。遠く見知らぬ人のサービスを受けるより、

身近にいる（北見に住んでいる）人からの支援が、何より安心です。」また、その地域の中に、『三しょく』ある事が大事だと言います。「食」・「触」・「職」。

まず第一に、地域の中で、買い物ができ、食事ができ、後始末もできる食行動の充実が欠かせません。

次に、同居家族がいない場合の多い高齢者世帯。触れ合い交流する場があることも大切です。そして、シルバー人材セン

ターの担う職も必須です。経済的自立、社会参加、自己実現を一つの行為でかなえてくれます。

さらに、歯科医師の米山武義氏は、「口と歯の健康が、シニア世代の生活と暮らしを守る」と主張しています。体の調子が悪い！その源は、歯の不健康にあると断言します。確かに、歯が不自由になると、体に踏ん張りがきかなくなり、心も荒んでくるように思います。

現在、十四歳の中学生の半数以上が、百七歳まで生きるといふ推計もあります。

そこまでは望まないものの、皆さん、健康で長生きして、人生をうんと楽しみましょう。

もし、この本を見かけたら、ぜひ手に取って読まれることをお勧めします。なお、北見図書館でも、借りることができます。

(広報委員会)



労政出版

新会員 募集中!

シルバー会員の皆さん！いま、60歳以上の9割の方が、「定年後も働きたい」と思っているそうです。知り合いでそんな方は、おりませんか？ そんな思いの方々に、ぜひ「シルバー人材センター」をご紹介ください。

入会説明会

い つ … 毎月 第2木曜日・第4木曜日 9時から
どこで … サンライフ北見（北見市東三輪5丁目1番地16）
☎ (0157) 23-6000

入会資格

おおむね60歳以上の男女

領のひろば

懐かしいあのことろ～

思い出の味Ⅱ

進 敬 (2地区3班)

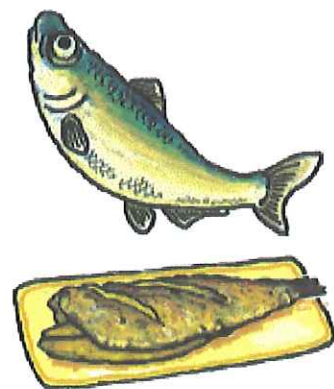
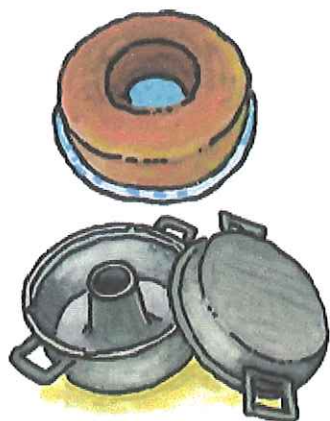
七、八歳(昭和二十三、二十四年)の頃、まだ市販のパンが貴重品だったし、配給切符がなければ買えなかった時代に大ヒットした「パン焼き器」があった。真ん中にドーナツ状の穴が開いていて、パン生地としてうどん粉(小麦粉)に膨らし粉(重曹)を入れるなど工夫してパン生地を作り、七輪やルンペンストーブの上で焼いた

この鍋の素材は「ジュラルミン」という金属だった。ジュラルミンはアルミニウムに銅・亜鉛・マグネシウムなどを加え

てつくった合金だった。軽いに強いという特性があり、戦時中零式艦上戦闘機(ゼロ戦)の機体に使われていた。なんと敗戦で戦闘機になるはずのものがパン焼き器に変身することになったのである。

当時代用食としての焼きパンは貴重だった。焼きあがった大きなドーナツ状のパンを母親が包丁で切ってくれたのを、我さきに食べたのを思い出す。

味はその時々々の甘味料の入手により違っていた。砂糖、サツカリン、ビートの糖蜜等であった。でも、家庭独自の忘れられぬ懐かしい味であった。のちにイースト菌が手に入り現在のパンの味に近づいたのかなと思う。



二月から三月にかけて、石狩湾各地で、ニシンの大群が産卵のために沿岸に押し寄せる様子を「群来(くき)と呼ぶ。今年も小樽近辺で観測され、その群来と共に、ニシンの水揚げ量がじりじりと上がってきていることは喜ばしいことである。

明治の最盛期には年間100万トン近く水揚げを誇り「鯨御殿」はその名残りである。しかし、明治三十年をピークに年々その量を減らし、ある時からほとんど姿を消し、昭和三十二年頃ニシン漁が途絶え、「幻の魚」と呼ばれるようになった。

昭和二十四年の春頃は、まだ30万トンほどのニシンが取れたので、庶民の味として広く流

通していた。当時は、今ほど冷凍技術がなくすぐ処理をしなければならぬので、大漁の時は値段が安く、木の魚箱で何箱も買う家庭が多かった。貧乏だった我が家でさえ箱買いをしたのだから。

三月、四月の各家庭の夕食時は七輪でニシンを焼く煙が立ちこめ、子どもながら「今日はニシンだ」と喜んだものだった。定番の焼きニシンは、大ぶりの数の子が入っているのがうれしかった。骨っぽいニシンだが、上手に骨をより分けて食べることもできた。醤油をかけ、大人の真似をしてやまわさびをちよいと付けた味はおいしくて今でもその味は忘れられない。

焼き以外はみりん干しや身欠きニシンにした。特に数の子はむしろで天日干しにして、正月用として大切に保存した。今と違って一斗樽で戻された大量の数の子は食べあきてるので、正月おせち料理でも最後まで残っていたものだった。

二人にちは

シルバー事務局です



令和四年四月より、当シルバー人材センター業務課に配属となりました南保稔でございます。

勤め始め、改めて感じることは、依頼を受ける仕事の分野や種類の多さと、たくさんの方々の能力を生かし、日々活躍されていることです。

シルバー人材センターの業務は、会員の皆様の豊富な知識、経験、能力のうえに成り立っていることを実感しています。毎日、会員の方々と接し、会話をさせていただく中で感じることは、それは、仕事に向き合い、取り組む姿勢、その意欲や熱意に敬服するばかりです。

近年、高齢化社会がますます進展し、意欲と能力に応じて、年齢にかかわらず働き続けることが出来る「生涯現役社会」が到来し、熟年労働者としての社会参加が大切な時代といわれています。しかしながら、一方ではさま

ざまな助けを受けながらの生活を余儀なくされる高齢者なども多く、身の回りの清掃、片付け、炊事から除雪、庭作業などの依頼も増えているようです。今後、この方々を支える力が求められており、新たな担い手、会員確保も益々必要となるでしょう。

私自身、この度、シルバー人材センターの職員として、その一翼を担うことになり、やがいと共に責任を感じております。

仕事を覚えるまでの間は、会員の皆さま方にはご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、一日も早く、戦力となれるように努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。最後になりましたが、会員の皆さまが、今後も就労や互助会活動を通じて、生きがいを感じ、益々お元気で活躍されることを願っております。

(公社)北見市シルバー人材センター

業務課主任 南 保 稔



編集後記

一年で一番過ごしやすい季節、春が来た。寒さから解放され、街路樹の新緑が目には輝き、相も変わらず季節は巡っていく感を強くする。

国内では、令和二年初めから始まった新型コロナウイルスの流行は、一向に収束のめどが立っておらず、日常生活にも強い影響を及ぼしている。ヨーロッパでは、ロシアがウクライナへの軍事侵略で無差別に市民の命を奪っている。ウクライナの惨禍と内憂外患の絶えない春でもある。

定時総会も無事終え令和四年度の事業計画も確定しました。その方針を受けて広報編集委員会も、年、四回の『シルバー北見』発行をめざし頑張る所存です。

本年度の広報委員

- | | | |
|-----|---|--------|
| 進 | 敬 | (2・3) |
| 村上 | 敏 | (2・3) |
| 佐々木 | 岩 | (9・4) |
| 田中 | 之 | (11・5) |
| 山口 | 茂 | (5・4) |